

教職を目指さない大阪教育大生

民谷健太郎

1. 教育大生は教職を目指しているのか？

私が今回インタビューしたW氏（男性、21歳）は、大阪教育大学小学校教員養成課程に所属する大学3年生である。彼は春から就職活動を開始し、現在就職活動真っ盛りという。

「なぜ教育大学生が就活しているの？」と思った人もいるのではないだろうか。

ここで教育大学の役割を確認すると、大阪教育大学HP上にある学長の挨拶では「学校教員を中心とする教育者の育成」、「学術と芸術を幅広く探求する」を使命に掲げ、「社会と国民の期待に応える」としている。

私自身、自己紹介で大学の名前を出すと「先生になるんや」、就職活動のシーズンに他大学の友人からは「就職活動せえへんの？」等とたびたび言われる。つまり、一般的に教育大学生は先生になることが前提だと考えられているのではないのだろうか。これが「社会と国民の期待」と言えなくはない。私も以前はそのように考えていた。

しかし、実際には卒業生で教員でない人は数多くいる。例えば、教養課程の出身ではあるが、BONNIE PINKさんは昨年紅白歌合戦に出場するくらい、歌の世界で成功を収めている。さらに大阪教育大学在學生の中でも、実は教職を目指していない人が多い。

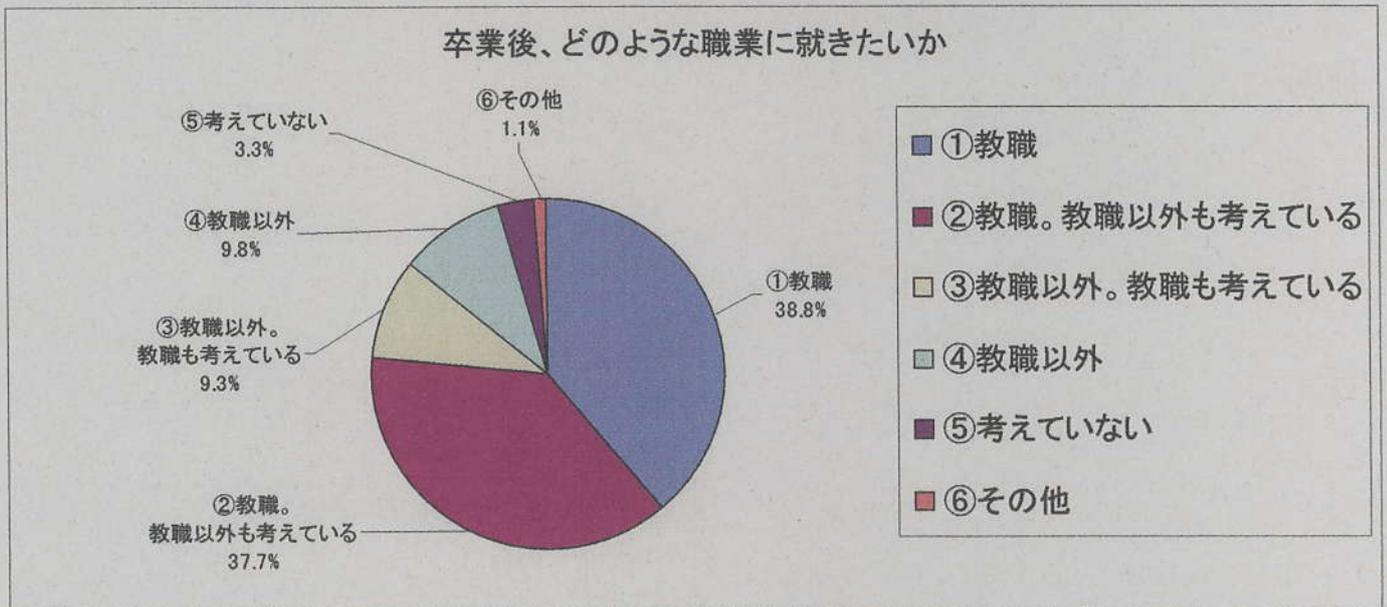


図1は、「卒業後、どのような仕事につきたいか」という質問への在學生190名の回答結果である。①と答えた人は何としても教職に就こうと考えており、②と答えた人はその気持ちが多量揺らいでいると考える。①と②が共に教職を強く志望している「教職を目指している人」であるのに対し、③から⑥は必ずしも教職を志望しているわけではない。よっ

て、③から⑥をまとめて「教職を目指さない人」とする。

結果を見ると、「教職を目指している人」は全体の8割弱おり、当然といえば当然の結果だろう。だが、①の「何としても教師になりたい人」は半分に満たない。私が今まで出会った大学の先生方がよくする質問に、「この中で絶対に教師になろうと思っている人はどれだけいますか？」というものがある。この質問は、「絶対に教師になるんだ」という強い気持ちで教師を目指してほしいという意味を含んでいるように感じられる。

しかし、実際そのような人ばかりがこの大学に在籍しているわけではないのが現実だ。5人に1人が教職を目指していないことから明らかである。では、大阪教育大学にいながら教職を目指していない人にはどのような特徴があるのか。そして、「大学は卒業さえできればいい」と言うW氏は、大阪教育大学において特異な存在なのだろうか。

2. 教職を目指さない学生とは

W氏へのインタビューの中で特に印象深かったことがある。それは、「大学に入った頃は教師になろうと思っていた。けど、1回生が終わる頃にある理由で教師を目指す気がなくなった」という言葉だ。ある理由が何なのかは分からないが、その時期に彼に変化を与えた何かがあったのだろう。表1は、回生と卒業後の進路に関するクロス集計結果である。この表から教職を目指さない人の特徴を探していく。

表1 回生と卒業後どのような職業に就きたいかに関するクロス集計

		卒業後どのような職業に就きたいか					合計	
		①		②		③~⑥		
回生	1回生	26	43.3%	23	38.3%	11	18.3%	60
		36.6%		33.8%		26.2%		33.1%
	2回生	21	42.9%	20	40.8%	8	16.3%	49
		29.6%		29.4%		19.0%		27.1%
	3回生	11	24.4%	19	42.2%	15	33.3%	45
		15.5%		27.9%		35.7%		24.9%
	4回生	13	48.1%	6	22.2%	8	29.6%	27
	18.3%		8.8%		19.0%		14.9%	
合計		71	39.2%	68	37.6%	42	23.2%	181

まず、教職を目指している人(①と②の合計数)の割合を比較してみると、入学して時間の経っていない1・2回生はそれぞれ81.7%、83.7%と高い割合である。これに対し、3・4回生はそれぞれ66.7%、70.4%と、1・2回生に比べ明らかに割合が減少している。これは教育大生が教師を志して入学したのだから妥当だろう。

次は①と②を分けて見てみる。先ほど述べたように、①は何としても教師になりたい人

と捉えることができるが、1・2回生の場合①と②の割合に大差はない。それが3回生になると②の方が大きくなり、さらに4回生では①の方が大きくなる。

なぜこのような傾向が現れたのかを考えてみる。3回生は教職に関する学習が増加し、それに伴いあらゆる情報が入ってくる。その中には教職を目指したくなくなるような情報も含まれているだろう。つまり1・2回生よりも教師になりたいという気持ちが揺らぐ要素が多いのだ。さらにこのアンケートは前期の終盤に行われたのだが、この時期の3回生は教育実習を控えている。私自身もそうだったが、教育実習前というのは不安な気持ちになりやすい。よって、①と②の数にこのような傾向が出てきたと推測できる。

4回生になると傾向が逆転するが、この理由を考える上で必要なのが次の表2と表3である。

表2 性別と回生に関するクロス集計

		1回生		2回生		3回生		4回生		合計
性別	男性	31	32.0%	24	24.7%	20	20.6%	22	22.7%	97
		48.4%		48.0%		43.5%		78.6%		51.6%
	女性	33	36.3%	26	28.6%	26	28.6%	6	6.6%	91
		51.6%		52.0%		56.5%		21.4%		48.4%
合計		64	34.0%	50	26.6%	46	24.5%	28	14.9%	188

表3 性別と卒業後どのような職業に就きたいかに関するクロス集計

		①		②		③		合計
性別	男性	44	46.8%	35	37.2%	15	16.0%	94
		62.0%		50.7%		34.9%		51.9%
	女性	27	31.0%	33	37.9%	27	31.0%	87
		38.0%		47.8%		62.8%		48.1%
合計		71	39.2%	69	38.1%	43	23.8%	181

表2と表3はどちらも「性別」という観点から見た集計結果である。表2の4回生の数を見ると、本アンケートでは4回生の男女比が他の回生に比べて偏っている。また表3を見ると、①では男性の割合が大きく、逆に③では女性の割合が大きくなる。つまり、女性よりも男性の方が強く教職を志望する傾向がある。表1で3回生と4回生の傾向の逆転が見られた理由は、以上2点の特徴から説明することができるかもしれない。

以上のように、表1の結果は性別の影響を受けたものである可能性がある。そこで、性別の影響を取り除いて、男性のみについて、もう一度表1と同様の集計を試みよう。

表4 男性における回生と卒業後どのような職業に就きたいかに関するクロス集計

卒業後どのような職業に就きたいか								
		①		②		③～⑥		合計
		1回生	16	53.3%	11	36.7%	3	
		36.4%		31.4%		20.0%		68.2%
回生	2回生	10	43.5%	9	39.1%	4	17.4%	23
			22.7%		25.7%		26.7%	
3回生	3回生	7	35.0%	11	55.0%	2	10.0%	20
			15.9%		31.4%		13.3%	
4回生	4回生	11	52.4%	4	19.0%	6	28.6%	21
			25.0%		11.4%		40.0%	
合計		44	46.8%	35	37.2%	15	16.0%	94

1回生では強く教職を志望する男性の傾向が出ているが、2回生では①と②の数が大きく変わらない。そして3回生では先に述べたように①に対して②の数が大きくなり、4回生では再び①の方が大きくなる。つまり表1で見られた傾向は表4でも見受けられ、結果として表1の傾向は性別の影響によるものではないと言える。

3. 結論

まず考察結果をまとめると、次の3点が挙げられる。

- ・ 大阪教育大学生の中には、教職を志望しない人がいる。
- ・ 3回生の時点で教職を志望しなくなる可能性が高い。
- ・ 男性は女性よりも1回生時点で強く教職を志望する。しかし、その後の傾向は同じで、性別による教職志望の傾向の偏りは見られない。

では、1節で登場したW氏は特異な存在なのだろうか。W氏について確認すると、彼は現役で入学した男性（21歳）で、現在就職活動中である。

入学当時は教職を志望し、入学後何らかの理由で教職を目指さなくなることは、考察結果と照らして十分にあり得る。現在W氏は3回生だが、3回生は教職志望者が減る時期であり、その意味ではW氏は決して特異な存在ではない。